

原発事故の被害を受けて千葉県に避難されている方へ

東京電力からの
損害賠償に
不満がある

東京電力へ
賠償請求すべき
損害がまだある



ADRセンターを利用してみませんか

ADRセンターでは、東京電力と賠償の合意をして賠償金を受け取られた方も、話し合い中の方も、まだ話し合いをしていない方も、どなたでも申立をすることができます。東京電力への請求を先行させる必要はありません。

ADRセンターは
東京電力とは
全く別の公的機関で
申立費用は無料です。

ADRセンターは
中立・公正な立場で
皆様と東京電力との賠償
の話し合いがま
とまるよう仲介しま
す。

ADRセンターは
申立てのあった事例のうち
約8割で和解が成立
しています。

令和3年3月で原発事故
から10年がたちます。
早めの申立てをおすすめ
します。

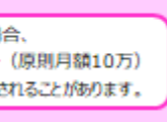
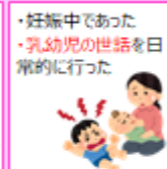


文部科学省原子力損害賠償紛争解決センター（ADRセンター）
☎ 0120-377-155（平日10時～17時）

ADRセンターでは
賠償金額を改めて算定し直します

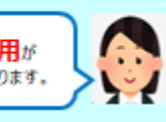
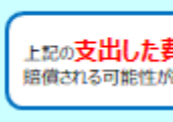
避難指示等対象区域の方

たとえば・・・



自主的避難等対象区域等の方

たとえば・・・



ADRってどんな手続き？

- ・申立ての書面はご自身でも簡単に作成できます。
- ・弁護士に依頼しなくてもご自身でも申立てができます。
- ・詳しい証拠資料がなくても申立てを受け付けます。
- ・原則非公開の手続きですので、周囲に知られずに申立てができます。

まずは、お気軽にお電話ください！

◆玲子さん(浪江町)のお味噌作り教室

日時：令和3年2月22日(月)10:00～12:00
会場：福島県県外避難者相談センターちば 定員：5名
参加費：避難者の方の参加費は無料。味噌作りの材料代実費(お問合せください)
住所：千葉市花見川区検見川町3-159-2(おおなみなみ) 申込み・問合せ:080-5418-7286

身体と心の小ネタ 第六十一便
コロナの今に必要なこと

オキシトシンという物質をご存じでしょうか。どこかで聞いたことがあるかもしれません。脳の中で分泌されているものです。

作用としては、ストレスの軽減や食欲を抑制する作用が明らかになっています。このオキシトシンですが、母と子の愛情や、学校や社会などの集団生活の中で人間関係を築いていく社会的行動にも関与していることで注目を集めているのです。人と交わったりする社会的行動への不安も軽減してくれるのです。オキシトシンを投与すると、他者に対して信頼感を増加させるという報告もあります。

現在コロナの影響で人と関わるのが難しくなり、画面を通じての笑顔や会話がなくなってきました。人と触れ合うことができない、自分の気持ちを話せない、うつうつとした日々を送っている人も多くいると思います。

こんな今だからこそ、オキシトシンを増やして、信頼感を取り戻す必要があると思います。

では、どうすればオキシトシンが増えるのでしょうか。方法は3つあります。

① 応答性と共感性を発揮することです。応答性とは、困っていることがあれば手を差し伸べるが、困っていない時は、見守る態度です。共感性とは、相手の立場で気持ちや意図を感じ取る能力です。

② 自らの忍耐力をつける

③ 友だち・家族や動物・花や木の世話をすることです。

さて今、皆さんにとってできそうなことはあるでしょうか。コロナの時だからできることがあると思います。

是非 オキシトシンを増やして、困難を乗り越えていきたいです。

一般社団法人 千葉県公認心理師協会

東北と千葉の出逢いが広がりますよう

エンジョイ

縁 joy



Vol.77 R3, 2, 1

今回は4/1号になります

発行：認定特定非営利活動法人
ちば市民活動・市民事業サポートクラブ
連絡先：〒261-0011 千葉市美浜区真砂5-21-12
☎043-303-1688
E-mail npo-club@par.odn.ne.jp
発行部数：2,000部
福島県から千葉県へ避難されている方の数：2,114
(R2.12/8現在)



千代田さん(左)と福井さん(右)

お久しぶりです

千葉市にお住まいの 千代田信一さん(双葉町)

千代田さん：今日は、俺の仲間を紹介します。一緒に自然薯を作っている「四街道市在住の福井康良さん」です。まさかここで自然薯を作るとは思っても見なかった。お陰様でコロナ禍でもフル回転の毎日だ。双葉で3年間自然薯栽培の指導を受けて、東京高島屋で3年間「千代田信一」の名前で販売もした。ここでの栽培は、5年目になるかな。1年目は、上手いかず、翌年からは、福島から砂を運び、種芋も福島で仕入れている。この塩ビパイプの洗浄や、植え付け後の柵作りも福井さんがやってくれている。俺とは違って、気持ちがおおらかで、怒った所は見ることがない、気持ちがいい人だ。

福井さん：千代田さんが四街道市に避難して、市が用意した鹿島荘で暮らしていた時、花見に誘うために訪ねて行ったら、ソファに腰掛けて、こんな風に頭を抱えててね。それに比べたら、今は元気になったんじゃないかな。あの時はまだ震災から1ヵ月しか経っていなかったから無理もないけど。

毎月11日には四街道駅で街頭募金をして、南相馬市の学校給食に四街道の野菜を運んだのをきっかけに、仮設住宅に運ぶようになって。仮設に通っても2年くらいは、会話なんて上手く出来なくて。仮設に暮らす方が亡くなっていったという話も聞いて、・・・仮設は年寄りばかりで、希望が持てない状況だったんだな。6年間毎月訪問して計77回。今では絆も実感するよ。南相馬市からの帰り道、線量計をぶら下げて双葉町の千代田さんの自宅に寄った時は、線量計が振り切れちゃってね。千代田さんが自然薯を作っていたという話になって、それなら「作って仮設に運ぼう」と意気投合。すぐに取りかかって、今年は、200個の種芋を植えて大小合せて95%くらいの収穫かな。



この日は、50本ほど収穫

情報紙「縁 joy」及びイベント「縁 joy・東北」2020は、福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金を活用して
東日本大震災で被災し、千葉県内で暮らす皆様の不安や悲しみが少しでも軽減されるよう
そして、被災者に対する理解が広まることを願って作成・発行・実施しています。